

モササウルスの「かたち」③

ワカヤマソウリュウは、これまでに知られていたモササウルスとは大きく異なる特徴を持っています。その特徴の中で、今回は頭部を取り上げます。

●主に魚を食べていた

ワカヤマソウリュウの頭骨の化石は、多くの部分が見つかっており、正確な復元ができています。その特徴から、魚などを食べるモササウルスだったことが分かります。尖った歯は獲物を捕らえるためのものですが、一つの歯の大きさは3センチメートルほどでした。尖った歯という特徴を見ると、硬いものをかみ砕くことは難しく、アンモナイトなどは食べていなかったようです。歯の大きさからは、巨大な獲物を食べるのには適しておらず、中型程度の魚を丸飲みしていたと考えられます。

●獲物との距離が正確に測れた

ワカヤマソウリュウの頭骨は、両眼が前向きについていることが大きな特徴です。この特徴から、立体的な視

覚を持ち、獲物との距離が正確に測れたことも分かりました。

ティロサウルスというモササウルス類は、かなり大型の獲物を相手にしていたため、同じ肉食でもそれほど立体的に見える必要はありませんでした。両眼は左右の広範囲が見える形状をしており、ワカヤマソウリュウと比較すると前方は見えにくそうです。ワカヤマソウリュウは大きな手足としっぽで海中を素早く泳ぎ回り、魚を追いかけていたのでしょう。

●視覚の比較

ものを立体的に見ることができると特徴は、私たちヒトやネコなど、陸上の肉食動物に共通しています。ネコはワカヤマソウリュウと同様に肉食であり、獲物との距離を測るために立体視ができる両眼の特徴を得ました。

一方でヒトは雑食で、肉食には特化していませんでした。しかし、サルなど霊長類の共通祖先が樹上生活をしており、木の枝の上を飛び回る際に距離を測る必要があったため、両眼視ができるようになりました。

